

経済・金融
フラッシュロシアの物価状況(24年11月)
—足もとのインフレ圧力はかなり強い

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:前年比は8.9%に再び上昇

12月11日、ロシア連邦統計局は消費者物価指数を公表し、結果は以下の通りとなった。

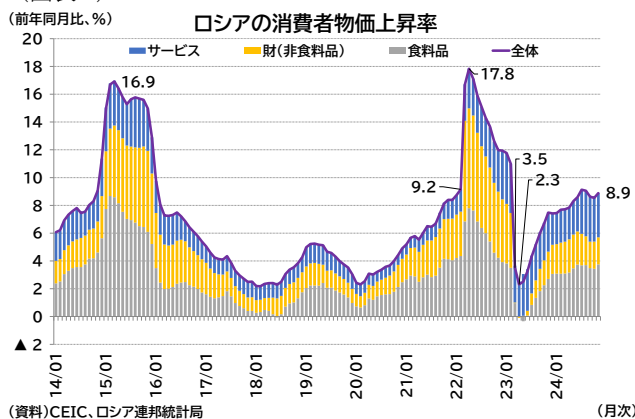
【総合指数(24年11月)】

- ・前年同月比は8.88%、市場予想¹(8.90%)より下振れ、前月(8.54%)から上昇(図表1)
- ・前月比は1.43%、市場予想(1.50%)より下振れ、前月(0.75%)から加速した

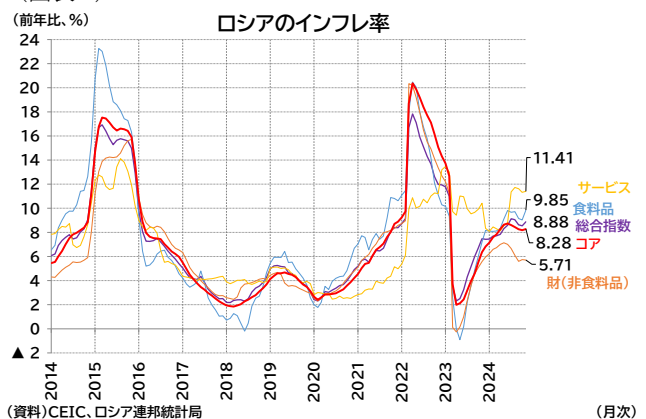
【コア指数²(24年11月)】

- ・前年同月比は8.28%、市場予想(8.37%)より下振れ、前月(8.18%)から上昇(図表2)
- ・前月比は1.10%、市場予想(1.10%)と一致、前月(0.81%)から加速した

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細:足もと、インフレ圧力はかなり強い

11月のロシアのインフレ率は前年比で8.88%となり、10月(8.54%)までの3か月連続での低下から反発した。なお、11月以降は米国がロシアの金融機関への制裁を強化したこともあり、ルーブル安が進行、インフレ圧力が強まっている。

インフレ率を大分類別に見ると、11月の前年比伸び率は食料品が9.85%(前月:9.03%)、財(非食料品)が5.71%(前月:5.74%)、サービスが11.41%(前月:11.32%)となり、食料インフレが全体の伸びを押し上げた。また、伸び率としてはサービスインフレの高止まりが続いている。

前年比寄与度では食料品が3.8%ポイント程度、財(非食料品)が1.9%ポイント程度、サービ

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

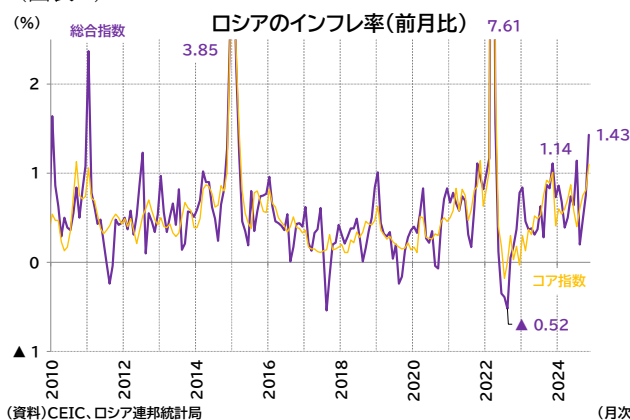
² 生鮮食品など季節的要因による影響を受ける品目や管理品目を除いた指数。

スが3.2%ポイント程度だった（図表1）。

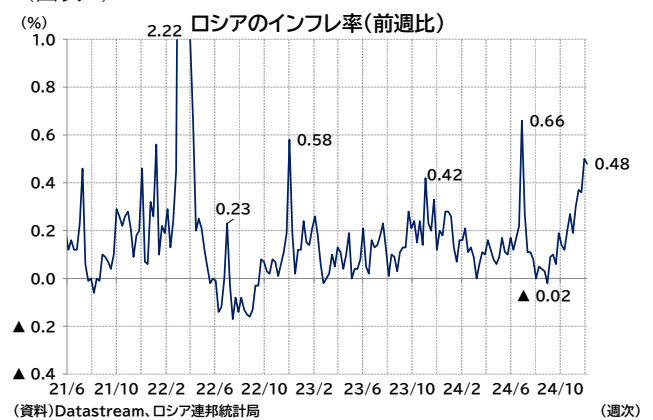
11月の前月比伸び率は、総合指数で1.43%、コア指数で1.10%となった。前月（総合指数0.75%、コア指数0.81%）から加速し、総合指数・コア指数ともにコロナ禍前の標準的な上昇率を上回った（2018年の前月比伸び率は平均で総合指数が約0.35%、コア指数が約0.30%、図表3）。前月比の伸び率は、ロシアのウクライナ侵攻後では、侵攻直後の高騰を除いて最高だった。なお、前月比伸び率を大分類で見ると食料品が2.33%（前月：1.23%）、財（非食料品）が0.51%（前月：0.68%）、サービスが1.31%（前月：0.21%）となった。

別途、ロシア連邦統計局が公表している週次のインフレ率（消費者物価上昇率）を見ると、前週比上昇では最新の12月9日時点の前週比で0.48%となり、インフレ圧力はかなり強くなっている（図表4）。

（図表3）



（図表4）



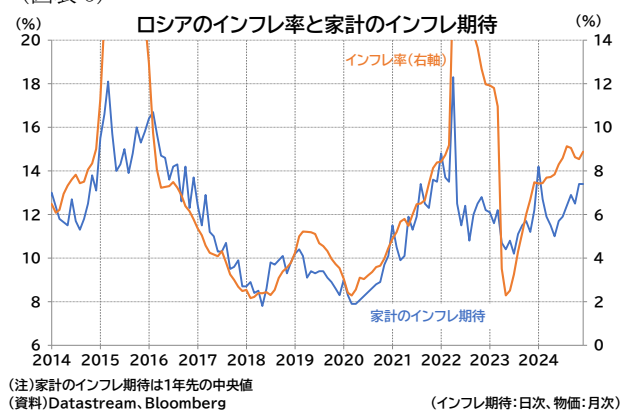
ロシア中央銀行が公表する家計のインフレ期待（1年先中央値、実際のインフレ率よりも高めになる傾向がある）は、11月は13.4%で10月から横ばいだった。これまで過去の傾向（期待インフレ率＝前年比インフレ率＋6%、図表5）と比較すると、期待インフレ率と実際のインフレ率との乖離は再びやや拡大した。

品目別の上昇率を見ると³（図表6）、11月は前年比でバター（34.13%）、その他サービス（30.47%）、青果物（18.73%）の伸び率が高い。また、前月比では、青果物（10.35%）、通信サービス（6.83%）、バター（5.04%）の上昇率が相対的に大きかった。

各品目の消費ウェイトも考慮して、全体のインフレ率への寄与を品目別に見ると（図表7・8）、前年比上昇率への寄与が大きい品目は住居・公益サービス（0.98%ポイント）、青果物（0.86%ポイント）だった。

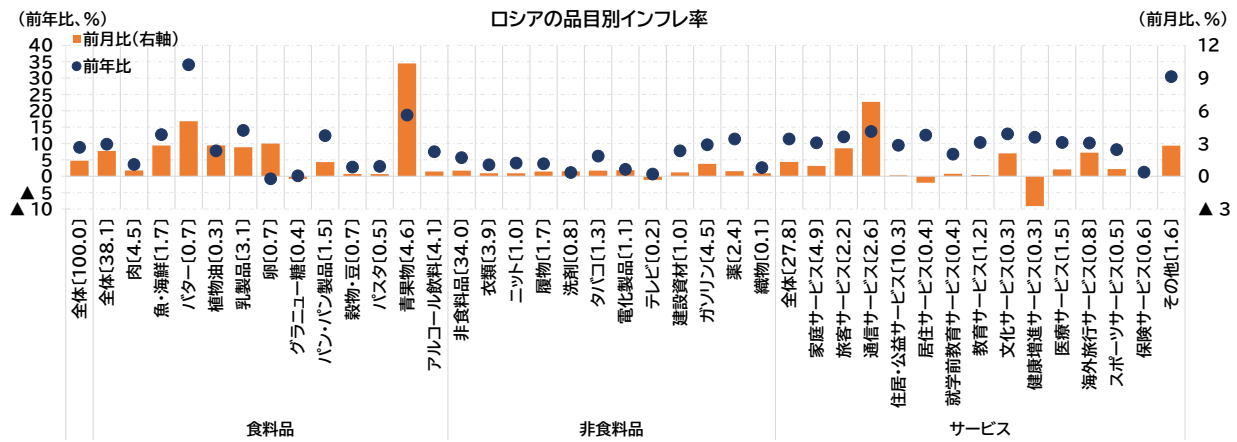
前月比上昇率の寄与では、青果物（約0.48%ポイント）、通信サービス（約0.18%ポイント）、乳製品（約0.08%ポイント）のプラス寄与が大きかった。

（図表5）



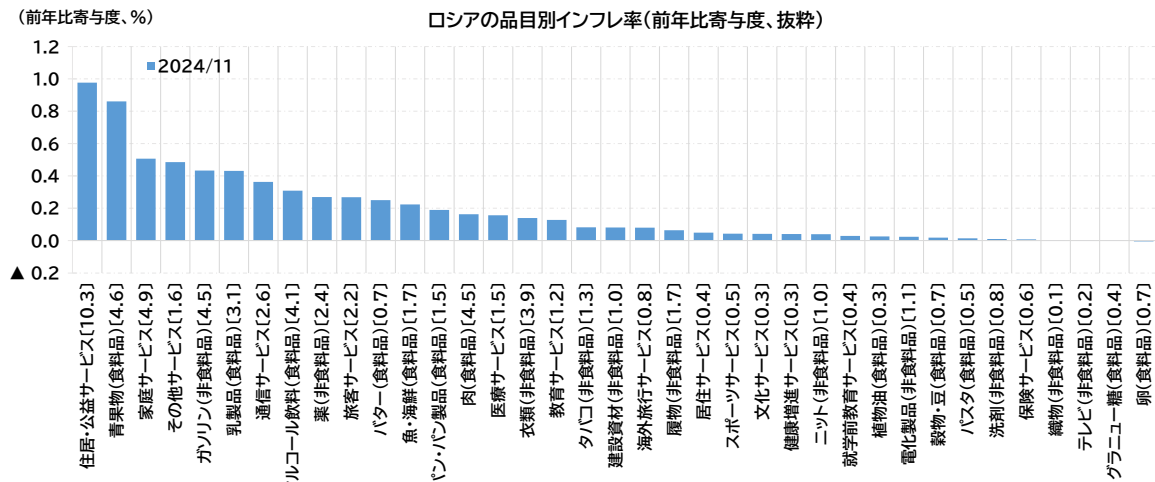
³ 大分類である食料品、財（非食料品）、サービスをそれぞれ細目別に分類したもの（中分類）のうち、[統計局のウェブサイト](#)で公表しているものを記載。

(図表 6)



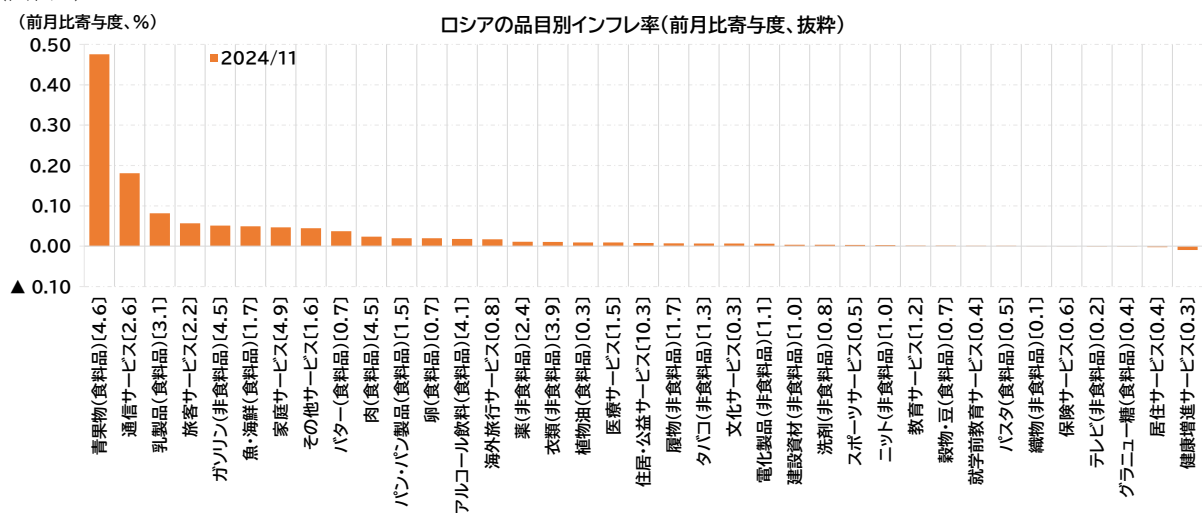
(注)大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
(資料)CEIC、ロシア連邦統計局

(図表 7)



(注)大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
(資料)CEIC、ロシア連邦統計局

(図表 8)



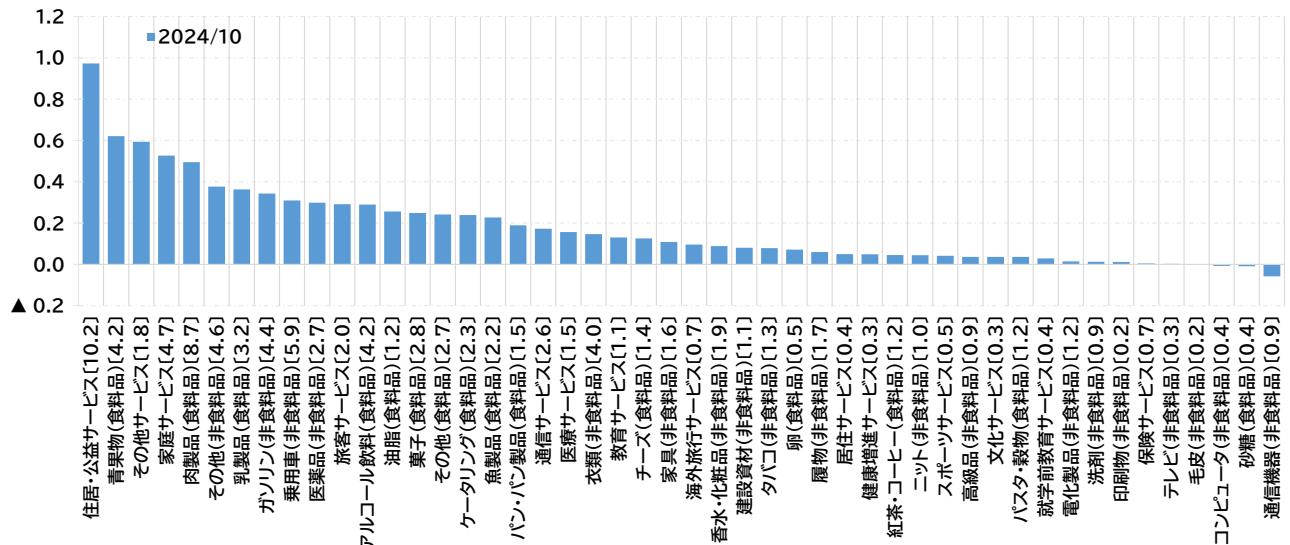
(注)大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
(資料)CEIC、ロシア連邦統計局

なお、現時点において統計局ウェブサイトで公表されていない品目も含む10月の上昇率寄与を見ると、前年比では概ね11月と同様の傾向が見て取れる（図表9・10）。

（図表9）

（前年比寄与度、%）

ロシアの品目別インフレ率（前年比寄与度）



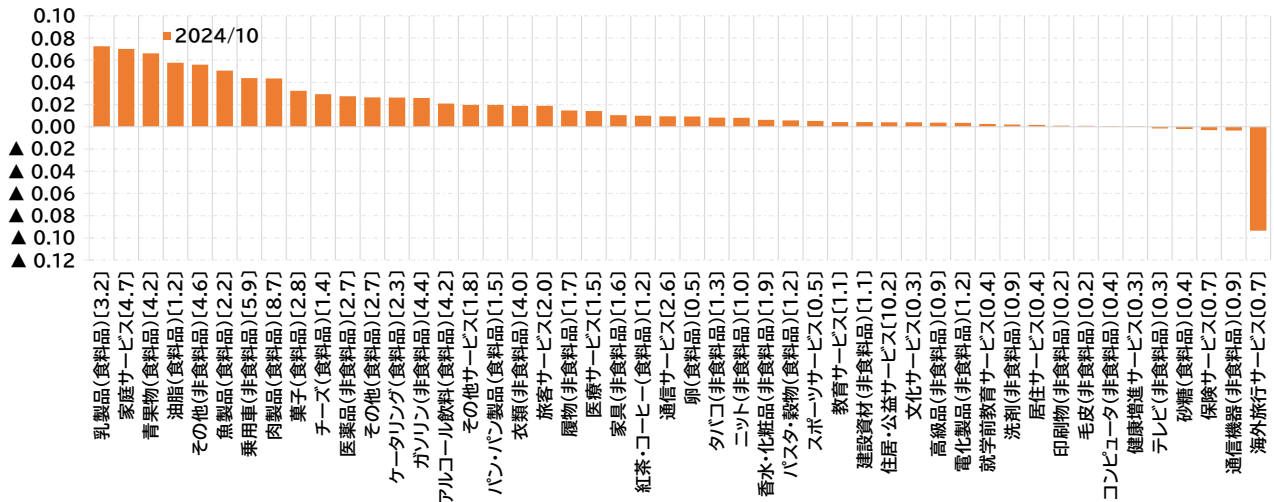
（注）各大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト

（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（図表10）

（前月比寄与度、%）

ロシアの品目別インフレ率（前月比寄与度）



（注）各大分類の中のその他の項目は残差から計算

（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。